

# 実践事例編

## ～ 目 次 ～

- 知的障害と視覚障害を併せ有する児童・生徒等を対象とした事例
  - 【事例1】 指示の明確化と姿勢の保持 ..... 28
  - 【事例2】 活動内容の明確化 ..... 30
  - 【事例3】 視覚的な環境整備 ..... 32
  - 【事例4】 字形の理解、目の使い方 ..... 34
  
- 知的障害と聴覚障害を併せ有する児童・生徒等を対象とした事例
  - 【事例5】 気持ちの表出方法や教材の呈示方法の工夫 ..... 36
  - 【事例6】 教材の呈示方法の工夫 ..... 38

児童の実態

視覚障害教育部門  
小学部1年 男子

【学習上の課題】

- ・点字を触読する際に、姿勢が崩れてしまう。
- ・集中が途切れやすい。

【主たる障害】

- 視覚障害
- ・視力：右（全盲）、左（光覚）
- ・補助具：眼球保護のため、眼鏡を装用



【併せ有する障害】

- 知的障害
- ・表出言語：1～2語文
- ・初めてのことに苦手意識がある。

指導目標

国語（点字の初期学習）

- ・手指全体を用いた触察に慣れ、物の形や素材を理解することができる。
- ・点字学習の初期段階として、手指の巧緻性や両手の協応動作を高める。

複数の障害種の  
専門性

+ α

指導目標を達成するために解決すべき課題

知的障害教育の視点から

- ・姿勢を崩さず、両手で操作するためには、座位を保持することが大切です。安定して座り続けられる環境を整えましょう。
- ・学習に集中できるようになるためには、何を何回やるのか見通しをもたせることが大切です。指示や予定の説明は、短く簡潔な言葉で伝えるようにしましょう。

学習上の課題の改善に向けた手だて

視覚障害教育の視点から

- **点字の導入**
  - ・言語能力を養うために、イメージや概念の形成に向けた触察の指導を行う。
  - ・好きな感触から弁別学習を行い、点字の読み、書きの学習の基礎の定着を図る。
- **触察能力の向上**
  - ・実物に触る機会を設け、言葉との関係を作る。

知的障害教育の視点から

- **安定した座位の保持**
  - ・姿勢を保持しやすい、いすを使用する。
- **意欲的に学習に取り組む工夫**
  - ・見通しがもてるよう活動を構造化し、繰り返しの学習を取り入れる。
  - ・言葉掛けは短く簡潔にする。
  - ・肯定的な評価を音声言語で伝え、学習意欲を高める。

+ α

ポイント

- ✓ 両手で丁寧に触察しやすいように、安定した姿勢が保てるように工夫する。
- ✓ 簡潔で肯定的な言葉掛けを行い、学習への見通しや意欲を高める。

## 【事例1】指導の視点：指示の明確化と姿勢の保持

### 指導内容及び指導の実際

#### 【指導場面】（国語・算数、自立活動）

- ・ 弁別しやすい感触のマッチングから開始し、点字のマッチング、点字読みの学習を行った。
- ・ 電動タイプライターを用いて、軽いタッチでタイプライターを扱うことができたようにした。
- ・ いすの座面の左右に板を取り付け、姿勢が崩れにくいようにした。
- ・ 課題ごとに、行う回数を先に伝え、見通しをもてるようにした。



安定した座位が保持できるように、補助を付けたいすを作製しました。



両手が机の上に上がり、点字に触れるようになりました。

### 児童の変容

#### ➤ 点字の導入や触読能力の向上

- ・ 10字程度の点字が、左右どちらの指でも読めるようになった。
- ・ 電動タイプライターを使った書きの学習で、「あいうえお」のキーを覚えて書けるようになった。
- ・ 簡単な3・4語文を聞いて「誰ですか」「いつですか」「どこですか」の質問に答えることができるようになった。

#### ➤ 安定した座位の保持と学習意欲の向上

- ・ 背筋を伸ばし、膝をそろえた姿勢が持続できることが多くなった。
- ・ 30分程度、集中して学習に取り組むことができた。
- ・ 両手で点字を読むことができるようになった。



電動タイプライター

GOOD

- ✓ 触察に対する指導を工夫するとともに、姿勢の保持にも目を向けたことで安定して、点字を触ることができるようになりました。
- ✓ 集中できる時間が増え、丁寧に触察できるようになりました。

# 知的障害と視覚障害を併せ有する児童・生徒等を対象とした事例

## 生徒の実態

視覚障害教育部門  
 中学部1年 女子

### 【主たる障害】

- 視覚障害
- ・視力：右 0.003 左 0.02



### 【併せ有する障害】

- 知的障害
- ・表出言語：2語文程度
- ・気持ちの切り替えが難しい。

### 【学習上の課題】

- ・学習活動に見通しがもてないときや集団での活動時に不安定になる。

## 指導目標

日常生活の指導（朝の会での予定の確認）

- ・不安を感じたときに、言葉で気持ちを表出し、気持ちの切り替えができるようになる。
- ・変化する状況を理解して、見通しをもって落ち着いて行動ができる。

複数の障害種  
 の専門性を  $+ \alpha$

## 指導目標を達成するために解決すべき課題

### 知的障害教育の視点から

- ・不安に感じている状況を教員が代弁したり、気持ちを受け止めたりして安心して学習に取り組めるよう環境を整えましょう。
- ・生徒がスケジュールを自分で確認できるような教材を工夫しましょう。

## 学習上の課題の改善に向けた手だて

### 視覚障害教育の視点から

- **活動に見通しをもって、学習できるようにする**
- ・半立体などの具体物を用いたスケジュールボードで生徒が予定の確認ができるようにする。

$+ \alpha$

### 知的障害教育の視点から

- **安心して学習できる環境をつくる**
- ・「さっきの課題、難しかったね」のように、授業内容の確認の際に本人の気持ちを代弁し、受け止める。
- ・口頭で伝えることに加え、ホワイトボードなどで予定を確認できるようにする。

### ポイント

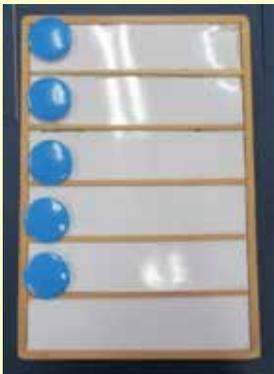
- ✓ 生徒が自分で予定を確認することができ、見通しをもって活動できるための工夫をする。

## 【事例2】指導の視点：活動内容の明確化

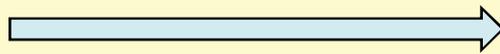
### 指導内容及び指導の実際

#### 【指導場面】（日常生活の指導、国語・数学）

- ・活動に見通しをもてないときに不安定になることがあるため、ホワイトボードで学習や生活の流れを確かめる指導を行った。
- ・気持ちが学習に向かないときに「帰りの会がしたい」（帰宅したい）と訴えがあるため、「今日は大変だったけど、頑張ったね」など、気持ちを受け止め共感を示す言葉を掛け、励ました。



導入の際、スケジュールボードの作りをできるだけシンプルにし、生徒が理解できるような工夫をしました。



スケジュールボードの使用に慣れてきたので、触覚と保有視覚も活用して理解できるように、立体物を使用しました。



### 生徒の変容

#### ➤ 予定を確認し、見通しをもった活動

- ・スケジュールを示すことで、見通しをもって学習に参加できるようになり、授業中に気持ちが不安定になることが少なくなった。
- ・次の学習が行われる場所や活動内容を自ら尋ね、スケジュールボードで確かめることが増えてきた。

#### ➤ 不安な気持ちを言語化する

- ・生徒の不安な気持ちを受け止め、教員が言語化することで気持ちを安定させて学習することができるようになった。また、生徒自身が様々な場面で伝えたいことを言語化し、安心して日常生活を送ることができるようになった。

#### GOOD

- ✓ 予定を確認できるように教材を工夫し、見通しをもって学習ができるようになりました。自分で確認できたことがより一層安定につながりました。
- ✓ 不安な気持ちを言葉にすることで、気持ちの切り替えができるようになりました。

児童の実態

知的障害教育部門  
小学部3年 女子

【主たる障害】

- 知的障害
- ・指さしや身振りなどで気持ちを表現することができる。



【併せ有する障害】

- 視覚障害
- ・斜視があり、視線が合わない。
- ・左目 優位

【学習上の課題】

- ・注視や追視が難しいために日常生活動作がスムーズに進まず、気が散ったり、感覚刺激に夢中になったりすることが多い。
- ・手の動きが先行し、見て確かめずに操作してしまう。

指導目標

算数（大きさや色などの属性が同じものに分ける学習）

- ・見ようとしたところや手を伸ばしたところに、視線を向けられるようになる。
- ・見て学習したり、活動したりすることの利便性に気付くことができる。

複数の障害種の  
専門性 + α

指導目標を達成するために解決すべき課題



視覚障害教育の視点から

- ・保有する視覚を有効に活用するためには、教材を大きくするだけでなく、教材の色や背景（机上に布を敷く、教員の服装の色に配慮する）など、見やすさへの配慮も必要です。

学習上の課題の改善に向けた手だて

知的障害教育の視点から

- 児童が取り組みやすい教材の作成
  - ・形や色、絵カードなどのマッチングを行う際に、視覚を活用する学習場面を意図的に設定する。
  - ・棒差し（目で見てねらいを定めて手を動かす教材）など、目と手の協応を促す活動を取り入れる。

+ α

視覚障害教育の視点から

- 見やすい環境づくり
  - ・机上に濃い色の布を敷いたり、台紙を濃い色にしたりするなどのコントラストを高め、見やすい環境づくりを行う。
- 視覚を活用することの利便性に気付く
  - ・教材を見て、学習に取り組む姿が見られた場面で即時評価し、「見る行動」を価値付ける。

ポイント

- ✓ 見え方に配慮した学習環境を整え、見る意欲を高める指導を行う。

## 【事例3】指導の視点：視覚的な環境整備

### 指導内容及び指導の実際

#### 【指導場面】(国語・算数、自立活動)「二色の分類」

- ・ 赤と水色のスプーンを色分けした。濃い色のすべり止めマットを敷くことでコントラストをはっきりさせた。
- ・ スプーンを一本ずつ渡して、「よく見たね」などの即時評価をするようにした。
- ・ 棒に筒状のスポンジを指す活動では、入れる棒を確かめてからスポンジを指すことができるよう、スポンジを一つずつ渡した。



教材が見やすいように、机に濃い色のマットを敷きました。



### 児童の変容

- 保有視力を有効に活用することができるようになった。
  - ・ 教材を持つ→見て確認する→操作するという一連の動きがスムーズにできるようになってきた。
  - ・ 見るべきポイントを確認してから手を動かしたり、教材をじっくり見て弁別したりすることができるようになってきた。
  - ・ 注視することができる時間が長くなり、集中して課題に取り組めるようになった。
- 「見たい」という気持ちが高まった。
  - ・ 学習環境を視覚的にとらえやすく整えたことで、児童が教材をじっくり見て学習することが増えた。
  - ・ 見ることを即時評価されたことにより、視覚を活用することを価値付けることができた。

#### GOOD

- ✓ 視覚を活用することの利便性に気づき、すすんで見ようという様子が見られるようになりました。
- ✓ 教材をじっくり見て取り組むことでできることが増えました。

生徒の実態

知的障害教育部門  
 中学部3年 女子

【学習上の課題】

- ・斜視があり、注視や追視が難しい。
- ・複雑な文字を理解することが難しい。

【主たる障害】

- 知的障害
- ・図形等の理解が難しい。



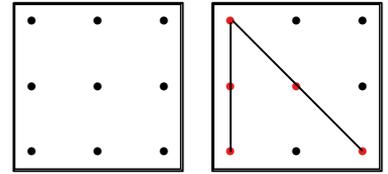
【併せ有する障害】

- 視覚障害
- ・斜視があり、左目優位
- ・注視や追視に課題がある。

指導目標

国語（漢字の学習）

- ・見本（9点ドット課題）を正しく模写できる。
- ・漢字を構造的に捉え、文字のつくりを理解し、正しく書くことができる漢字を増やす。



9点ドット課題

複数の障害種の  
 専門性を  $+\alpha$

指導目標を達成するために解決すべき課題



視覚障害教育の視点から

- ・漢字を「へん」を「つくり」に分けたり、既習の漢字に分解したりすると理解しやすくなります。
- ・文字の始点や交点を意識して書くと正しく文字を書けるようになります。

学習上の課題の改善に向けた手だて

知的障害教育の視点から

- **見ることを意識した言葉掛け**
- ・生徒の興味に応じて、追視する際の対象を決める。顔を動かさずに目で追うことができた際に即時評価をする。

$+\alpha$

視覚障害教育の視点から

- **滑らかな眼球運動を目指す**
- ・2つの写真を左右に動かしながら呈示し、追視を促す。
- **図形や字形の理解を促す**
- ・見本に正中線が分かるような補助線を引いたり、構造が理解できるような漢字を分解したりする。

ポイント

- ✓ 目の動きに着目した指導内容・方法を工夫する。
- ✓ 字形や図形の理解を促す指導を行う。

## 【事例4】指導の視点：字形の理解、目の使い方

### 指導内容及び指導の実際

#### 【指導場面】（国語・数学、自立活動）

- ・対象生徒の好む2種類の写真を棒の先に付け、順番に注視するよう促した。
- ・写真が付いた棒を左右に移動させ、追視を促した。

移動させる距離を徐々に広げていき、追視する距離を延ばしていきます。

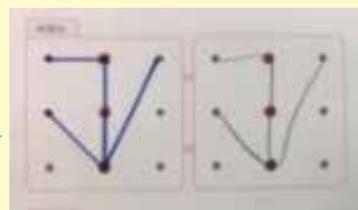


- ・目印になるようにドットの一つ一つの点に色を付けた。
- ・漢字がどのように構成されているか分かりやすくした。

「田と「木」に分解して、理解を促しました。



ドットに色を付けて見やすくしました。



### 生徒の変容

#### ➤ 円滑な眼球運動ができるようになった。

- ・追視、注視の課題では、以前よりも正確に眼球を動かすことができるようになってきた。
- ・空間認知の課題では、以前よりも迷いなく点と点を結んでいる様子が見られる。途中間違えそうになったときは、そのことに自分から気づき、訂正することができた。

#### ➤ 複雑な字形の漢字を理解できるようになった。

- ・漢字を分解して呈示することで、少しずつ誤答が減ってきている。
- ・9点ドット課題は正中線に色付けしたことで、複雑な模様でも正しく模写できるようになってきた。

#### GOOD

- ✓ 文字の始点・交点を目で確認してみる習慣ができ、漢字の書き間違いが減りました。
- ✓ 複雑な形の漢字のつくりが分かるようになり、正しく書くことができる漢字が大幅に増えました。

児童の実態

聴覚障害特別支援学校  
小学部 2年 男子

【主たる障害】

- 聴覚障害
- ・両耳 110db
- ・高度難聴



【併せ有する障害】

- 知的障害
- ・自分からすすんで、他者に伝えることが少ない。
- ・気持ちの切り替えが難しい。

【学習上の課題】

- ・自発的なコミュニケーションは少ない。
- ・活動場面により、気持ちの切り替えが難しいことがある。

指導目標

国語、自立活動（コミュニケーション手段の獲得）

- ・相手の手指の動きや身体の動きをとらえて模倣しようとする態度を育てる。
- ・指文字や手話等を用いて表現する力を伸ばし、自発的にコミュニケーションを取ろうとすることができるようになる。

複数の障害種  
の専門性を  $+ \alpha$

指導目標を達成するために解決すべき課題

知的障害教育の視点から

- ・絵カードと文字カードなど、カード同士のマッチングの前に、絵カードと手話や具体物などでやり取りできるような場を設定しましょう。
- ・具体物を介して、指文字や手話などの関係を伝え合う活動を通して、他者とのやり取りの基礎を身につける方法も有効です。

学習上の課題の改善に向けた手だて

聴覚障害教育の視点から

- **手指の動きに意味があることを知る**
- ・具体物と手話・指文字との関係を明確化できるよう、視覚的支援を行う。
- ・ICT 機器等を用いたり、見本を示したりするなど具体的に見通しがもてるようにする。

知的障害教育の視点から

- **視覚的に理解しやすい教材の工夫**
- ・絵カードや具体物と指文字との関係が理解できる学習を設定する。
- ・予定カードなどで活動の順番を示し、はじめと終わりを見て分かるようにする。

$+ \alpha$

ポイント

- ✓ 指文字や手話だけでなく他のコミュニケーション方法を用いて、教員や友達とのやり取りを増やす工夫をする。

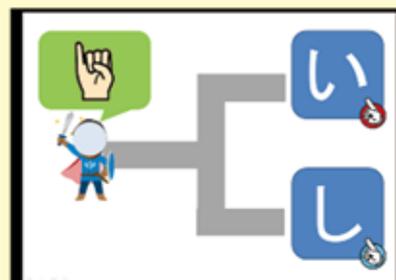
## 【事例5】指導の視点：気持ちの表出方法や教材の工夫

### 指導内容及び指導の実際

#### 【指導場面】（国語、自立活動）「自分の名前」

- ・自分の名前の指文字を学習するためにICT 機器を活用した。選択すると正誤が明確に示される教材で、理解を促した。

大型のタッチパネル式のディスプレイに投影し、児童が操作して取り組めるようにした。



#### 「ブラックボックス」

- ・身振りや手話表現を組み合わせ、ブラックボックスの中のものを伝える活動に取り組んだ。
- ・自分なりに表現したものを手話に置き換えていくことで、少しずつ新しい手話も覚えられるようになった。

児童が好きなもの（車のおもちゃなど）を選ぶことで、教員に伝えたいという意欲を促した。



### 児童の変容

#### ➤ 指文字などで教員や友達とやり取りをする場面が増えた。

- ・簡単な手話（欲しい・やりたい、だめ、結構ですなど）や本児なりの身振り、指さしなどでコミュニケーションがとれるようになってきた。
- ・ジェスチャーや手話などの手段を使うと相手に気持ちが伝わりやすいという経験を積み重ね、自ら関わろうとする意欲が育った。
- ・コミュニケーションの方法が増えたため、自分の思いと違ったときにも気持ちを切り替えられるようになってきた。

#### GOOD

- ✓ 自分から、働きかけようという意欲が育ち、先生や友達との関わりが増えたことでコミュニケーション能力が向上しました。大きな集団での学習にもスムーズに取り組む姿が見られるようになりました。

児童の実態

聴覚障害特別支援学校  
小学部 3年 女子

【主体障害】

- 聴覚障害
- ・聴力 100db
- ・日常的な聴覚活用はほとんど見られない。



【併せ有する障害】

- 知的障害
- ・情報を取捨選択することが難しい。

【学習上の課題】

- ・学習に意欲的に取り組むが、教員の説明を十分に見聞きせずに活動してしまうことがある。

指導目標

国語、日常生活の指導（説明の理解）

- ・教員の説明を最後まで見聞きし、内容を十分に理解した上で、自信をもち、すすんで活動に取り組む。

複数の障害種  
の専門性を  $+\alpha$

指導目標を達成するために解決すべき課題

知的障害教育の視点から

- ・手話や絵カードなど様々な手段を活用することも大切ですが、知的障害を併せ有する児童は、情報の取捨選択が難しい場合があります。呈示する教材や情報を精選して伝える工夫をしましょう。



学習上の課題の改善に向けた手だて

聴覚障害教育の視点から

- **様々な手段を活用した説明の工夫**
- ・手話や絵カードの他、視覚教材を活用し、児童が情報を十分に得られるよう、伝え方を工夫する。

$+\alpha$

知的障害教育の視点から

- **教材の呈示方法の工夫**
- ・手話や教材の呈示位置や、呈示のタイミング等に配慮し、教員が説明中、本児がどこに視点を向けたら良いか分かるようにする。

ポイント

- ✓ 呈示する情報を精選、整理することで分かりやすく伝える工夫をする。

## 【事例6】指導の視点：教材の呈示方法の工夫

## 指導内容及び指導の実際

## 【指導場面】 国語・算数・自立活動（個別）等 &lt;プリント課題&gt;

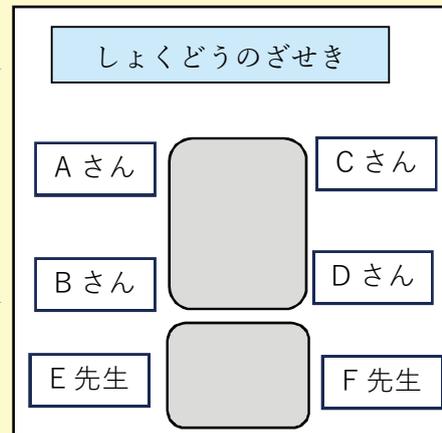
- ・初めにプリントを呈示して全体像を伝え、その後、手話による説明を加えた。このことで、児童が目を向ける点が定まり、「教員の話をしっかり聞き取って理解した」という経験を重ねることができた。

## 【指導場面】 日常生活の指導 朝の会

- ・朝の会で給食の座席位置（毎日変更する）を伝え、各自で給食の準備ができるようにした。
- ・毎日行う活動を指導場面とすることで、繰り返し学習できるようにした。
- ・給食の際に、自分の席をホワイトボードで確かめて説明を聞くことの大切さを認識できるようにした。

ホワイトボードにマグネットで教員、友達の名前を貼り、日替わりで座席を変更する。

ホワイトボードで位置を示したのち、「AさんのとなりはBさん、向かいはCさん」という説明を加える。



## 児童の変容

## ➤ 見る教材やポイントを精選して情報を収集できるようになった。

- ・初めて見聞きするような課題であっても、教員の話から理解できるようになった。
- ・プリントや活動例を見ただけでは詳細を十分に把握できないことに気付いたことにより、教員の話を見聞きすることの大切さが分かり、最後まで見聞きしてから活動に取り組むことができるようになった。

## GOOD

- ✓ 教員の説明をしっかりと見聞きして活動を始めることができるようになりました。
- ✓ 成功体験を重ね、他の学習にも積極的に取り組む姿が見られました。

## 複数の障害種の専門性を生かした指導改善シート（様式例）

項目	観点・内容
① 実態把握	運動機能 <input type="checkbox"/> 利き手の確認( ) <input type="checkbox"/> 目の使い方( ) <input type="checkbox"/> 手首、腕の使い方( ) <input type="checkbox"/> 指の使い方( ) <input type="checkbox"/> 姿勢の様子( ) <input type="checkbox"/> その他( )
	<input type="checkbox"/> 聞こえ方、見え方 <input type="checkbox"/> 聴力      dB <input type="checkbox"/> 視力 <input type="checkbox"/> 使用している補助具等
	<input type="checkbox"/> アセスメントの実施（有・無） アセスメント名（      ） アセスメント結果（      ）
	<input type="checkbox"/> コミュニケーションツール
	<input type="checkbox"/> 学習や認知の様子
	<input type="checkbox"/> 自立活動の内容と関連付けた課題
	② 指導目標
③指導目標を達成するために解決すべき課題	
④学習上の課題の改善に向けた手だて	
⑤指導した内容	
⑥児童・生徒の変容	

※ 本様式を参考に、各校の実態等を踏まえて記載すべき内容などを工夫して活用してください。